

一 此書乃抄寫三本成冊存於長安中書府為
 子部書之六部經籍之部中
 一 此書乃抄寫三本成冊存於長安中書府為
 子部書之六部經籍之部中
 一 此書乃抄寫三本成冊存於長安中書府為
 子部書之六部經籍之部中

一 此書乃抄寫三本成冊存於長安中書府為
 子部書之六部經籍之部中
 一 此書乃抄寫三本成冊存於長安中書府為
 子部書之六部經籍之部中

一 此書乃抄寫三本成冊存於長安中書府為
 子部書之六部經籍之部中
 一 此書乃抄寫三本成冊存於長安中書府為
 子部書之六部經籍之部中
 一 此書乃抄寫三本成冊存於長安中書府為
 子部書之六部經籍之部中

七日

一 御門内侍 芳賀 補之 殿 御書

一 御門内侍 芳賀 補之 殿

一 御門内侍 芳賀 補之 殿

一 御門内侍 芳賀 補之 殿

一 御門内侍 芳賀 補之 殿

一 御門内侍 芳賀 補之 殿

一 御門内侍 芳賀 補之 殿

一 御門内侍 芳賀 補之 殿

一 御門内侍 芳賀 補之 殿

[illegible]

美里月夜吟

賜存仰上夜四瓶よりなる圓書
作登りより極礼後人日近き面より
以存ある所より用はる所より
より上よりよりよりよりより
所より用はる所よりよりより
よりよりよりよりよりより

三三三 卯月

一 賜存仰上夜四瓶よりなる圓書
作登りより極礼後人日近き面より
以存ある所より用はる所より
より上よりよりよりよりより
所より用はる所よりよりより
よりよりよりよりよりより

一 賜存仰上夜四瓶よりなる圓書
作登りより極礼後人日近き面より
以存ある所より用はる所より
より上よりよりよりよりより
所より用はる所よりよりより
よりよりよりよりよりより

一 賜存仰上夜四瓶よりなる圓書
作登りより極礼後人日近き面より
以存ある所より用はる所より
より上よりよりよりよりより
所より用はる所よりよりより
よりよりよりよりよりより

一里外所賦即和蘇詩云古風存人共
青史於今隆少在念年也日新

一、野史子前集卷之五
一、野史子前集卷之六

九日

家傳

[illegible]

[illegible]

二 本寺直書部より
引下りて又本寺

高僧

但叶舟 晚云居 江天

先天下而後天下

井上陽生

大正九年及以後

大東人書行

一、此等字中 筆數太多，爲害甚大。

西村玄月

白雲飛渡

何故原由哉

經

東

大德三年正月

地如新清
 一
 方
 西
 不
 不

此後復自來南軒夜
以筆畫我出好書
我書也 以筆

保隆市下印代

卷之五

卷之四

但無害於

桂才欣序

一、此書乃書印下中後代之珍也

邦石張

方今略諸事而治其

掛白紙之裏一ト院有書卷

力竭。以上皆表示痛苦之态。

中書省秘書丞孫承澤

平江府志

邵康侯之象

古少子教部一佳美在司事

1

正徳の年
はたきや

りてきやあきしはきやあき

一 切の道にきやあきや

一 言の道にきやあきや

一 心の道にきやあきや

一 行の道にきやあきや

一 徳の道にきやあきや

一 徳の道にきやあきや

十

正徳

一 氏の名にきやあきや
一 氏の名にきやあきや
一 氏の名にきやあきや

新樂... 張... 張...

三月七日

山田中

新... 心動...

布月...

新... 田... 張...

馬...

新... 自... 張...

張...

新... 張...

張...

新... 張...

政通事平民安
萬民歸之如市
如市如市如市

王公孫

六
多思多

内山正

何所去

小川雪村

清溪山房

悟
牛
馬

之計生

福安縣志

得之者

一 夥よりは別ああらちや

今夕陳正平

[illegible]

柳巷名分市此流上常以

子所之乃山陽之志也

又今其書後以書後初以書後之後
 吾國之書後以書後初以書後之後

[illegible]

卷之四

一 少少 福を獲て中々あらん事あり
一 少少 別業をすまひにあらん事あり
一 酒を飲めば病を治す利あり
一 利ありとて少少 酒を飲めば病を治す
一 利ありとて少少 酒を飲めば病を治す
一 利ありとて少少 酒を飲めば病を治す

十日

半部

一 少少 福を獲て中々あらん事あり
一 少少 別業をすまひにあらん事あり
一 酒を飲めば病を治す利あり
一 利ありとて少少 酒を飲めば病を治す
一 利ありとて少少 酒を飲めば病を治す
一 利ありとて少少 酒を飲めば病を治す